

おとさだ

乙 貞

第 197 号 通 巻 34 巻 第 4 号
平成 26 (2014) 年 12 月 1 日 発行

守 山 市 立 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー
TEL/FAX 077-585-4397

〒524-0212
守 山 市 服 部 町 2 2 5 0 番 地

徐々に寒さが増し、本格的な冬がやってきました。大掃除など慌ただしい師走をお過ごしのことと思います。インフルエンザが流行し始めていますが、忙しい中でも身体には十分注意して、健康に年末を乗り切りたいですね。

さて、10月から11月にかけては市内遺跡の発掘調査とともに、多数の文化財イベントを実施いたしました。本号ではこれらの模様もお伝えします。

発掘調査だより

1. 石田遺跡の発掘調査

石田遺跡は石田町字塚本に所在し、宅地造成工事に伴い平成26年9月中旬から下旬にかけて約250㎡の発掘調査を行いました。

調査の成果は、溝、^{ちゅうけつ}柱穴、^{どこう}土坑、井戸および旧河道を検出しました。溝等から出土した弥生土器や土師器から弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と考えられます。

調査区を南北に横切る溝が数条検出されたほか、調査区南東側では柱穴が多数検出されました。柱穴からは弥生土器が検出されていて、弥生時代後期の遺構と推測されます。調査範囲の都合上、検出された柱穴から建物を復元することはできませんでしたが、調査区周辺に掘立柱建物があつたと推測されます。調査区北西側は地形的に落ち込んでおり、東西方向に伸びる旧河道があつたことがわかりました。旧河道の肩口で、直径約2mを測る素掘りの井戸が発見されました。出土遺物から古墳時代前期と考えられます。

今回の調査により、調査区周辺には弥生時代後期から古墳時代前期の集落が広がっていたことが推測されました。(伴野)



▲石田遺跡トレンチ-1 全景



▲石田遺跡トレンチ-2 全景

2. 下之郷遺跡第97次調査

下之郷二丁目字井上の宅地 200 m² について重要遺跡範囲確認調査を7月末から11月にかけて発掘調査を行いました。11月8日に現地説明会を開催し、多くの方々に見学していただき、調査を完了しました。

今回の調査は、住宅跡地での調査でしたが、地下約70 cm程度の場所に弥生時代中期後半代の柱穴、溝、井戸跡などが良好な状態で保存されていました。検出された柱穴は、どくりつむなもちはしらつき独立棟持柱付へいちだてもの平地建物 (SB1) や壁立式平地建物

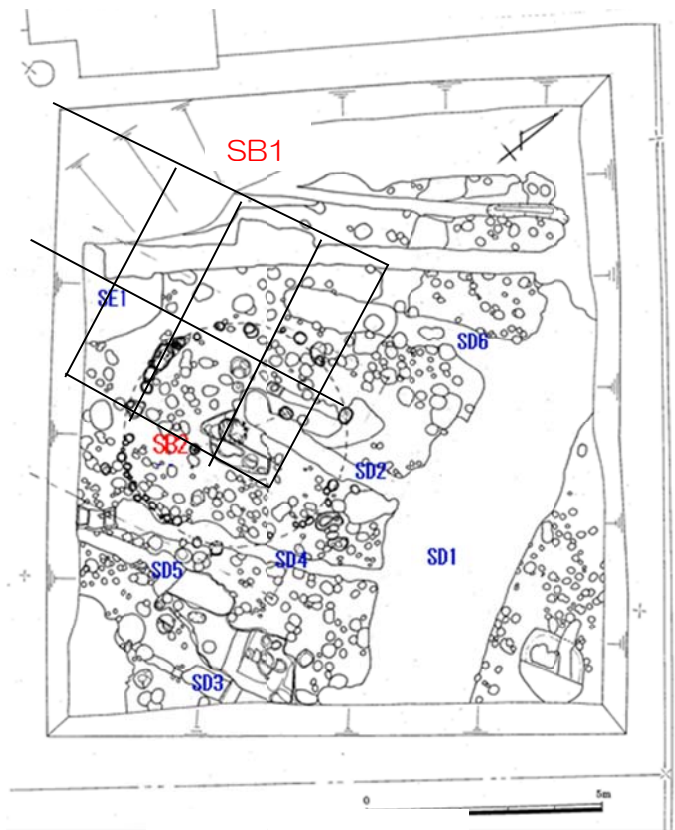
(SB2) の可能性が高く、同じ場所で数時期の建て替え(重複)があったと考えられます。

また溝は、集落内部の居住域や建物群を区画するものと推定され、溝に堆積した土砂の観察から集落排水の役割を持っていたと推定されます。

調査区の西隅で検出した井戸跡 (SE1) は掘り下げておりませんが、ボーリングステッキでの差し込み調査した結果、下層には多量の植物遺体が埋もれていることが判明し、環濠集落内の植生や人々の生活の様子を知るうえで貴重な遺構であることがわかりました。

これまでの下之郷遺跡の調査において、環濠の近くで遺構が密集して広がっている場所はあまり確認されませんでしたでしたが、今回調査をした集落北西部では、環濠の近くまで建物跡や溝、井戸跡などが密集していることがわかりました。

弥生時代中期の環濠集落内部の様子は未解明なことが多いのですが、周辺の調査事例や他の地点と比較していけば、当時の集落の様子や移り変わりが、さらに明らかになっていくと考えられます。(川畑)

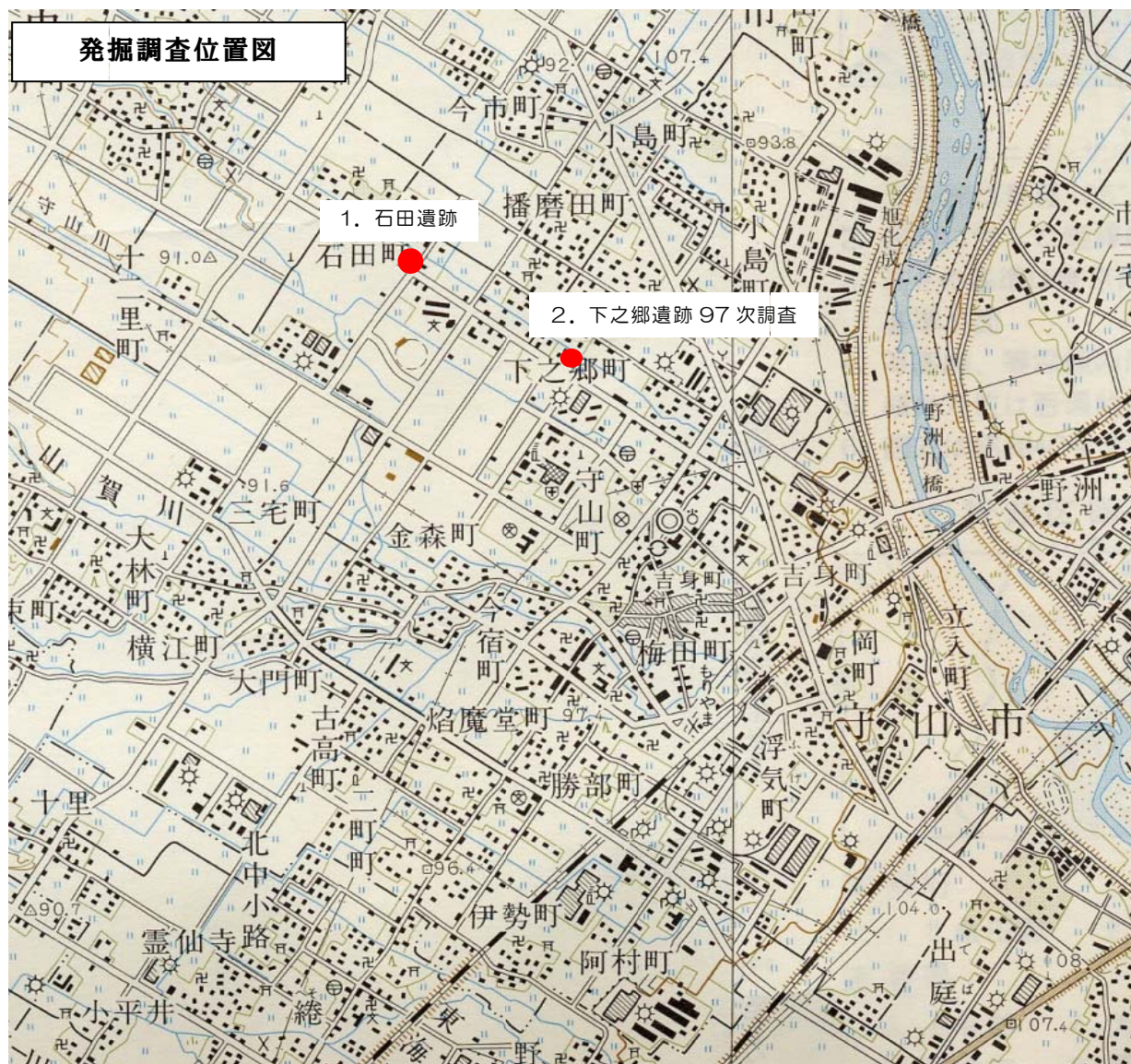


▲検出遺構平面図



▲97次調査全景写真

発掘調査位置図



トピックス

文化財講演会を開催しました！

秋季特別展開催期間中の11月15日（土）に、文化財講演会「飛騨高山を築いた”ひと”ー金森長近 もうひとつの実像を求めてー」を開催しました。

高山市市史編纂専門員で、金森公顕彰会事務局長として活躍されている田中彰さんの「高山の城下町づくりには、金森長近はもとより、当時の守山の人々が大いに活躍した」という話に、約50名の受講者は、守山と高山の歴史的な関わりの深さをはじめめて知り、熱心に聞き入ったり、メモを取っていました。



▲講演風景

平成 26 年度秋季特別展

11月1日(土)～11月24日(祝・月)にかけて秋季特別展を開催いたしました。今回は『古墳時代の守山—服部遺跡・下之郷遺跡・伊勢遺跡のその後—』をテーマとして、市内の発掘調査で出土した古墳時代の日常生活具から儀仗や銅鏡などの威儀具、そして埴輪などを中心に展示しました。

平野部に立地する守山市はその地形にも恵まれて、稲作農耕文化である弥生時代に急速な発展を遂げます。今回の特別展は弥生時代に続く古墳時代の人々の生活はどうであったのか知ってもらおう展示としました。期間中は市外・県外からも多くの方々にご来館いただき誠にありがとうございました。

また、11月24日(月)には「古墳時代の威儀具の残映」として京都橘大学教授の一瀬和夫先生より、威儀具の歴史的な成り立ちと下長遺跡出土の儀仗の価値についてご講演していただきました。

守山市内をはじめ市外からも多くの方々が見学に来られました。

見学中の来館者



▲一瀬教授講演様子



特別展の展示



11月には秋季特別展に加え、伊勢遺跡歴史講演会、下之郷遺跡 97 次調査現地説明会、文化財講演会、下之郷遺跡まつり、歴史講演会など、イベントが週末ごとに開催されました。

守山に来て二ヶ月半、これらのイベントや特別展の展示品を通し、守山市内には「服部・下之郷・伊勢・下長遺跡」という、市町村単位で一つあるかないかというほどの史跡クラスの遺跡が、わずか数十年間の調査で4つも発見されたことに驚愕し、守山の魅力を知り始めたところです。(濱田)